

ち かい
 私は、名誉にかけて、次の3条の
 実行をちかいます。
 1. 神(仏)と国とに誠を尽し“お
 きて”を守ります。
 1. いつも、他の人々を助けます。
 1. からだを強くし、心をすこや
 かに、徳を養います。

標 語
 そ ね え よ つ ね に
 日 の 善 行



お きて

1. スカウトは 誠である
2. スカウトは 忠節を尽す
3. スカウトは 人の力になる
4. スカウトは 友誼に厚い
5. スカウトは 礼儀正し
6. スカウトは 親切である
7. スカウトは 従順である
8. スカウトは 快活である
9. スカウトは 質素である
10. スカウトは 勇敢である
11. スカウトは 純潔である
12. スカウトは つつしみ深い



取りもどしたいもの



浜松地区副委員長 内 田 嘉 一

大東亜戦争によって我が日本国は多くのものを失った。多くの人命、残ったものの少ない荒廃した国土、道徳心、日本人としての誇り、愛国心等々。

然し勤勉な国民の真剣な働きと努力によって産業は盛んになり、いつの間にか一大工業国として世界各国の中で屈指の大国となった。大国となり過ぎて、ドル安円高で恨まれたり、輸出入の規制や黒字ドル減らしで各国のヒンシュクをかかったりする程になってしまった。

教育の面では、米国に次いで世界第2位であると言われていた。それは高等学校、大学、大学院の学校の数と卒業生の数のことであって、その質の問題ではないのである。その質の点について考えてみたときには、誇り得るものは極めて少ないと思われる。それは何故だろうか。

数や表面の発展にのみ目がそそがれて最も大切な人間性涵養という精神面が忘れられていたからではなからうか。30余年間に知らず知らずのうちにその大切なものを失ってしまったのではなからうか。

- 父親らしい厳しい父親、おやじの味。
- 母親らしい慈しみの母親、おふくろの味。
- 男の子らしいたくましい男の子、がき大将。
- 国を愛する心、愛国心、国旗、国歌。
- 感謝する心、有難うさん。
- 奉仕する心、ボランティア精神。

- 祖先を敬い感謝する心、宗教心。
- きまりや約束を守る法治国民としての心。
- 他人に迷惑をかけない心。
- 自分や他人の身体や命を大切にすること。
- 物を大切に、粗末にしない心。
- 長幼の序、目上を敬い従う心。
- 幼い者や弱い者をいたわる心。

等々教えあげればキリがないが、全く失なわれたとは言いつても、薄くなって、乏しくなったことはたしかである。

日本という国は、一つの島の中に日本人という一族で、日本語という一つの言葉で三千年の歴史と伝統、東洋芸術の美術芸術を有し、春夏秋冬に恵まれ、果物や生水にも恵まれ、外国人からは非常に羨しがられる素晴らしい国なのである。

今日新しい年を迎えるに当って、我が日本の国を現実にしつかりと顧みて、過去の上に立っての現在。更に現在を踏まえての未来を見通して、失なわれたものを取り戻して、日本人の真の幸福を獲得したいものである。

それは何か。失なわれた日本人の心を再び日本人のものとして取り戻したいのである。

失なわれたものは真に大切なものである。それを取り戻す最も容易な方法は、ボーイスカウト教育を的確に実行することである。

新年を迎えて、失なわれたものを取り戻すことの決意を新たにしているものである。

新年の言葉

浜松地区委員長 内田 時世



新年おめでとうございます。いよいよ第7回日本ジャンボリーの年が明けました。スカウト諸君のためのジャンボリーが御殿場滝ヶ原に於て挙行される年が始まったのです。参加するスカウト

は隊長により選抜され、君達の仲間に承認された責任ある代表スカウトであるはずで

す。自からの自覚と責任に於て、参加するまでの期間を君達の仲間である他のスカウトと共に研修をおこなってはなりません。リーダーの諸兄も日頃の奉仕に加えて、更に責任ある立場におかれることと思

いますが、スカウトと共に研修にはげんで下さい。尚団委員長を中心として団関係の皆さんもこの事を理解し、協力して

いただきたい。本年はスカウティングのルーツを探究して、その根作りを確実なものとしてほしいとおもいます。「スカウティングは自主参加のものであり、国際社会の一員として諸々の可能性を完全に達成出来るよう、達成させるように、青少年の発達に貢献することにある」とい

われております。そのための「ちかい」であり「おきて」であり、その実施は、「班制度」と「進歩制度」を活用したプログラムを通じて実施されるべきものであります。スカウターとしての目的は何にあるのか。自主参加の意義は何処にあったのかと自分自身に今一度たずねてほしいと思

います。どんな事にも耐え得る自分という事をスカウティングを通じて頑張ることを是非実行して下さい。「忍を行ずる者は有力の大人なり」という言葉の意義をしみじみと味ってほしいと思

新春に思う

浜松地区副委員長 富沢 広士

1977年には実に不怪にして不快な事件が相続しておきた。三徳円事件を始めとする医科大学の裏口入学、毒入りのコーラやチョココレート、全く世の中が狂ってしまったのではないかと思はれる様な事ばかりであった。来年は何とかそんな事のない様に

と願うのは私一人だけではないと思う。馬年だから何とかウマくいって貰いたいものだ。

先日TVで五つ子の名付親である清水寺の大西管主に記者がインタビューして「将来の青年に何をおのぞみになりますか」と尋ねる場面が放映されていた。102才の管主は次の様に答えられた。みちと云う字には三つある。その1つは首をかけてもまっすぐに進むと云う道である。これを天下の大道と云う、その2つは路と云う字で各人が勝手に歩くみちである。これを小路と云う、その3つは余ったみちで途の字を使う、願はくば青年少年諸君は天下の大道を胸を張って進んで貰いたいと云う主旨のお話でありました。

世の中の人々からみればボーイスカウトこそまさに天下の大道をつきすすんでいる開拓者であり又、自らもそれを以って任

第7回日本ジャンボリー 8月に御殿場市滝ヶ原で開催

浜松地区コミッショナー 牧野 績

ジャンボリーはスカウトの祭典である。しかし、単なるお祭りではない、常日頃励んでいるスカウト活動を基盤として、ひとりひとりがスカウトとしての自覚の上に乗って、その成果を余すところなく発揮しながら、友情と相互理解を深めるスカウト兄弟の楽しい集りである。

この日本ジャンボリーは4年を周期として開催され、野外生活を通じて国際親善と相互理解を実践するとともにボーイスカウト運動の進展と飛躍を期待する。第7回日本ジャンボリーのテーマは、皆さんすでにご承知だと思うが『希望と躍動』である。これは、若者にとって明日はいつも希望に満ちている未来は、あらゆる可能性を意味し、創造の喜びと、いのちの躍動と

第七回日本ジャンボリー日程表

○ 準全体行事
□ 全体行事

時刻	前日	第1日	第2日	第3日	第4日	第5日	翌日
	8/3木	8/4金	8/5土	8/6日	8/7月	8/8火	8/9水
6:30	炊事係起床		当番起床	床			
6:00	全員起床		全員起床	床			
07:00	朝食		点検	講評	朝礼		
08:30	国旗掲揚		中央掲揚パレード				
09:00	開場式	設営	友情ゲーム	宗教行事	選択プログラム	選択プログラム	撤営
11:00	設営			友情訪問			
12:00	昼食			交歓	昼食		
13:30	設営	基本的設営完了	選択プログラム	【J.大集会】	選択プログラム	選択プログラム	撤営
16:30							
17:30	夕食	【開会式】		友情のパーティー			
18:00	派遣団到着			国旗降納			閉場
19:00	完了	隊小営火	SC自由交歓	スカウトフェスティバル 各SCごとに実施	SC自由交歓	【開会式】	
21:00							
21:30	班長会議						
22:00		消燈					

※7NJの全体行事は開会式・閉会式・J大集会とし、全員が正装で参加する。

を内包している。人間的躍動、社会への躍動、そして世界への躍動を理想にテーマが作られた。

今度開催される御殿場市滝ヶ原は昭和37年8月に16ヶ国、26,000名が参加して第3回日本ジャンボリー（第1回アジアジャンボリー）が開催された地である。会場は国鉄御殿場駅西北約6km、海拔750m～850m、日本のほぼ中心部にある秀峰富士の広大な裾野の一部である。地区からは、ボーイスカウト175名、シニア50名（含リーダー）とその他GHQ、SHQ奉仕リーダー30余名が参加することとなった。

今回のジャンボリーの特長の一つとしては、サブキャンプシステムが取り入れられ、運営は各サブキャンプが主体となって行われる。従来までは県連単位にキャンプサイドが設けられたが、15aのサブキャンプからなり、15サブキャンプはジャンボリー本部に当てられ各参加隊は14のサブキャンプに割当てられることになった。過去6回にわたり経験したジャンボリーをふりかえり反省する点が多かったので、原点に帰った新しいタイプのジャンボリーにするため、各編成隊は隊長を中心に事前訓練が開始されている。またバイオニア賞への挑戦についても、ボーイ、シニア、共それぞれ参加希望を取りまとめ、ジャンボリーならではの各種目に胸をふくらませている。

カブ隊発隊にあたり

浜北第5団々委員長 伊藤 尚

昨夜来の雨も上り忠霊のみたま鎮まります中瀬神社の境内は晩秋のやわらかな陽に包まれて、絶好の発隊式日和となりました。11月27日午前10時B S県連、地区の役員、地区友隊、地元



有識者の皆様方の御臨席のもと、大変盛會に、なごやかなふんいきの内に式が進められ、カブ隊諸君は、大勢の皆様方の前で「カブスカウト」のやくそくとさだめ、をしっかり守り立派な人間になることをちかいました。

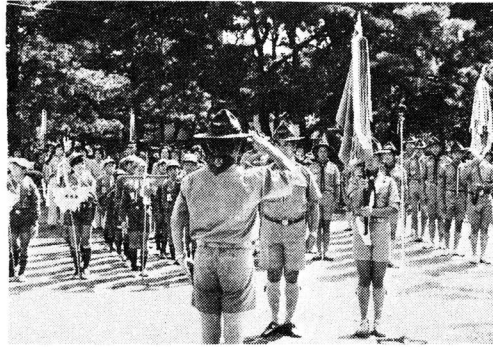
式終了後幼稚園の運動場に於て友隊のみなさんと一語になって、ダンス（ジェンカ）、絵合せ、凧つくりなど父兄の応援等おりまぜて大変楽しい一ときを過ごすことが出来ました。

当団は結成後日浅く誠に未熟ではありますが、地区の皆様方のあたたかい御支援と御指導を載きましてボーイスカウト精神を身につけ、将来立派な社会人になるべく努力致したいと思ひます。今後ともよろしく願ひ致します。

浜松第7団20年の歩み

浜松第7団組織拡張委員 坪井愛三

本日、我が団の20周年記念式典にあたり、多くの諸先輩達が



しっかりと私達にバトンタッチしてくれた。20個の足跡を更に前進する為、今一度ふり返って見たいと思います。

昭和33年4月1日、現在地区副委員長である宮沢広士氏が初代団委員長、県副コミ三輪悦爾氏がボーイ隊委員長として高台地区に浜松第7団ボーイ隊が発団発隊致しました。この日より足跡の前進が始り、35年4月にはカブ隊が宮沢広士氏を初代隊長とし発隊。

又、明けて36年3月にはシニア隊が三輪悦爾氏を初代隊長とし発隊し、浜松第7団が完全団として更に深い足跡を踏みしめて一歩一歩と進んで来ました。

37年4月より団委員長に角加苗氏を迎へましたが、38年10月団拡大し、高台地区以外であるスカウトが多数の為ここに7団を分封して浜松第12団が宮沢広士氏を団委員長として発団致しました。

この間33年、第2回あいばの日本ジャンボリーに多くのボーイスカウトが参加、37年第3回御殿場アジアジャンボリーにも参加して来ました。

41年、3代目団委員長として、大橋俊蔵氏を迎へ、氏の「モットー」である「質素であれ、を實行し、リーダーの養成に全力をそそぎ、又今の福祉行政の進まない10年前、三方原町浜松養護園に6年間奉仕と愛の交換を続け、スカウト達に健全な体の喜びと、いたわりの愛情を得る事が出来ました。昭和52年1月2日、大橋氏の急死は12月21日のクリスマスのサンタクロースが夢の様なお別れの姿でした。この間、第5回朝霧高原日本ジャンボリー、46年世界ジャンボリー、49年第6回北海道日本ジャンボリーとスカウト達は栄光の場を踏みしめて進んで来ました。

昭和43年、当時の男性リーダー高倉氏1名の当時がうその様に只今は12名実習所履修者3名と多くのリーダーが光の路に向って足並をそろえて進んでおります。



昭和50年度より若さあふれる第4代団委員長に光部四郎氏を迎へ、更に力強い足音を高らかに協力しております

昭和50年1月、フィリピン派遣2名、51年、アメリカ派遣1名、52年、アメリカ派遣3名とスカウト達は力強く伸び育っております。そして、昭和53年第7回御殿場日本ジャンボリーに向って磨きをかけ、更に力強く足跡を踏みしめて前進したいと思ひます。

私達も今一度初心に戻り、スカウト達に人間として、かくあれかしと理想への祈りをこめて第7団父兄、リーダー手をたずさえ協力前進したいと思っております。

野営行事委員研修会 成功裡に終了

浜松地区野営行事委員長 竹村 徳一

11月5日午後2時30分、各団からの参加者35名の整列する中を遠州青少年野外訓練センターのポールに国旗が昇った。こうして第2回浜松地区野営行事委員研修会の幕が開いた。

牧野浜松地区コミをキャップに、各ブロックの副コミ、事務局より中島、鈴木両事務次長、三輪県連副コミもスタッフに加る。夕方には地区委員長も入山。

この研修会の目的は、スカウトを直接指導するリーダーを養成するのではなく、各団に於けるスカウト活動の裏方さんである野営行事委員の方々に野営の基本的な事を覚えてもらうのが目的で開催するものです。参加された方々の中には、すでに各種の行事にご奉仕をされているベテランの方もおりますし、また今後、団のため、或は地区行事に奉仕をしようと考へておられる方、それぞれ新旧の違いはあつても、この研修会に対する期待と興味は大きいものがあつたようです。ゲームの時などは童心に帰り、息を切らして走りまわりました。地区委員長担当の救急法の講義には、モデルを使い人工呼吸、心臓マッサージ等行いましたが、皆さん真剣に練習しましたし、熱心な質問やメモをとる人もおりました。

夕食時にはそれぞれ班毎に鉄板焼きを囲んで楽しいひと時を過ごしましたが、合つてからまだ3時間程しか経っていないのに、旧知の間柄のようなうちとけた雰囲気の中で、お互に自己紹介をしておりました。こういう点も良い点だと思ひます。

見上げる夜空は澄みわたり、満天の星の下、たき火で暖をとりながら秋の夜の更けるのも忘れて話がはずみました。パチパチ燃えるたき火、傍らを流れる沢の水音、友との語らい、幸とはこんな事ではないのかな、ついそんな気がしました。

朝礼時の日曜礼拝、日頃忘れかけている祖先への感謝、神仏への畏敬の念を思い起こさせてくれる貴重なひと時です。

野営に於ける必須科目ともいえるものは結索法です。これも今回の研修会の大きな目的です。実際に立ちかまどを作りましたが、さすが大人の仕事、スカウトが作るようなグラグラかまどはありませんでした。その他数種類のロープワークを練習しテントの張り方の実習を終る頃には閉所式の時間が迫つておりました。

短い時間ではありましたが、充実した内容で楽しく有意義な研修会でした。別れぎわに「また来年の班訓で合ひましよう」と声を掛け合つている姿も見られました。

参加された方々の今後のご活躍を期待すると共に、本部スタッフの方々に厚くお礼を申し上げます。



J. O. T. A. とスカウティング

浜松第6団SS隊長 中島 繁光

第20回J. O. T. A. も例年どおり中田島海岸へ移動運用する事になり、準備を急いだ。

10月15日、午後2時にスタッフ集合、そして午後3時スカウトが集合して設営にかかった。今年は初めて参加するスカウトが多いようだ。充分な設営ができるかと危ぶまれたが、なにはともあれ、やってみる事だと思ひスカウト、リーダー一致協力して頑張つた。昨年より約1時間遅れて設営が完了した。いよいよ期待に胸おどらせて、受信機のスイッチをいれる。同調をとり、各周波数を聞いてみる。聞こえてくる。聞こえてくる。我等スカウトCQジャンボリー……。



夜半、リーダー打合せ会の中で1つ問題が出された。

「J. O. T. A. に参加する事は、普段のスカウト活動を活かして、更にハムを通じて、よりよきスカウティングを実践することだと思ふ。本日、スカウト達をみていると、これはリーダーにも言える事だが、ただ、無線機にかじりつき、マイクを握り、電鍵をたたきばかりで、我々が一番しなければならない事を忘れてはいないだろうか。臨時に組織された、インフォーマルなグループではあるけれども皆なスカウトではないか。充分なパトロールシステムを行うのは難かしいかもしれないが、明日の活動には一考を要したい」

夜遅くまで明日の事を話し合った。その間、スカウト達は、多少疲れの色はみせてはいたが、一生懸命しゃべりつづけていた。

朝礼……。国旗が12mのタワーに掲揚され、一同敬礼。

「君達は、普段のスカウトであつてほしい。昨日からの野営はJ. O. T. A. に参加する為の野営ではあるけれども、いつも君達を実施しているキャンピングと本質はちがついていないと思ふ」

朝礼後、スカウト達はようよう気が付いて、早速ミーティングを開き、本日の活動について十分に話し合った。

スカウティングは、自発活動であり、よき指導者のもとに集り、活動し、自己を鍛えていこうとする気持をもって事にあたる事だと思ふ。

個人的な無線技術の興味によって行う自己訓練、通信および技術的研究の業務がアマチュア業務であり、ならば、ラジオスカウティングが十分なパトロールシステムを活用する事（又はプロジェクトチームの運用）によって本来のスカウティングで求めるものに一段と早く、十分に達成できるのでなかろうか。私たちは電波を通じて、多くの人にふれ、友をふやし、明日にむかってはばたこう。すすもう。第7回日本ジャンボリーはもうそこまで来ているのだから。

最後に、各団団委員の皆さんの協力に感謝し、各リーダーの努力に来年度も是非とお願いし、お礼かたがたこの報告をおわります。

第二回浜松地区中央小地区運動会

と き 9月18日

ところ 浜松市江の島運動場

浜松地区中央小地区の各団、団委員長を始め、各種の運営委員として御奉仕していただいた皆様有難うございました。

この運動会は、CS隊からBS隊、SS隊、団委員、リーダー、父兄と巾広く参加し楽しみながら日頃の活動の発表の場です。その日スカウト達の心が天に通じたのか、雲一つ無い秋晴の一日でした。

江の島運動公園に朝早く集合し、各隊のコーナーにフライを張ったり、マーキーを建てたりして運動会にのぞんだ。式典に始まり、つづいて競技にはいった。優勝旗を我が団に持ち帰えらんと、各団一体となって競技にいどむ。初めにCS隊の組で「むかで競走」8メートルのロープ2本で行う競走で1人が間違えたと、全員がころぶ。「四人六脚」BSチーム、さあこれも大変足が合わない、あっちでコロ、こっちでコロ、みんなで大笑。

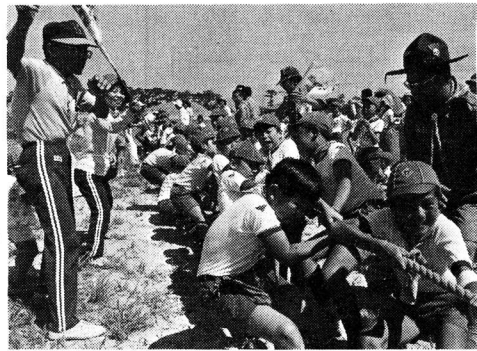
次にBSチームによる「たんか競走」、さすがボーイスカウト各団とも速い速い、拍手喝采でした。「シルバーコンパス競技」BS個人、一人一人がコンパスを持ち、方位角と歩側によってゴールする。ゴールになかなかたどりつけないようでした。

CSチーム「借物競走」始めはバケツ、隊旗、くつのうちは良かったが、デンマザーの制服と言った時、DMがたのまれ脱ぎかかったんですが「あ……私、下に何も着ていなかったと気が付き、ことわるに大変でした。たのしい昼食の時間、14団では日曜札拝を行なったり、21団のCS隊では、9月のテーマのお祭で会場せましと発表会を行っていました。

午後、BSチームの「借物競走」グループの1人が50メートルはなれた所で手旗をうち、他4名が受け、品物をそろえ持つてゴールする。言葉を出したら失格する。



全部のグループが借りて来る物がちがうので、隣のグループと同じ物を持ってゴールしてもだめです。各隊とも、もう少し手旗の練習をするともっと良くなるようです。BSチーム「障害物競走」①リム回し、②タイヤくぐり、③ネットくぐり、④縄とび、⑤ソリ引きなどがあり、CS、BSチーム対抗「水くみレース」バケツ2はいの水を、いかに早くこぼさずに運びゴールするか。始めの人は水がこぼれ、びっしょり濡れてしまった。又あるグループは最初に水を半分こぼしてしまい、トップでゴールした。採点がむつかしかった。フィナーレの団対抗リレーです。出場者はCS（小3二名、小4二名、小5二名、CSリーダー男一名女一名、DM二名）BS（小6二名、中1二名、中2二名、BSリーダー二名）（団委員二名、父兄女性三名、団委員長又は副団委員長一名）で熱戦がくりひろげられた。スタート順は小三、小四、小五、と同じ年代同志の順序で行なった。応援が大変でみんなコースの中に入ってしまつて「ワアワア…」と隊旗をふるもの、団の旗をふるもの、バケツをたたく人、いっしょになって走る人、この興奮の内にレースは終わった。



次に表彰に入つて総合優勝は浜松第21団、準優勝は浜松第15団とつづき、弥栄の三唱で終わった。又帰りには来年こそは「おれ達が優勝してやるぞ」といきがっていた。スカウトたちのバイタリティは大変なものである。しかし、まだ団の中には完全団ではない団があり、出場できない種目があり、点がとれない団がある。運動会だけでなく、早く完全団にし、よりよいスカウティングを行なつて行こうではないか。（玉木功一記）

迎春 ボーイスカウト日本連盟浜松需品部 スポーツ品全般 体育器具・器材設計施工

旭スポーツ店

浜松・連尺町2 TEL 54-4301

中央小地区歳末助け合い運動 募金額 337,225円 NHKへ

と き 12月11日

場 所 板屋町、田町、旭町、肴町、砂山町、鍛冶町
伝馬町

玉 木 功 一

歳末助け合いにご協力していただいた皆様、ありがとうございました。中央小地区の年間行事の奉仕の一つとして、恵まれない人達に少しでも役立ってほしいと計画しました。私達は恵まれた生活環境の中でくらししていますがそれをどのぐらい感じているだろうか？……

全員が寒々とした街頭に立ち箱を前に持って「歳末助け合いにご協力をお願いします。」「恵まれない人達にご協力をお願いします。」と大きな声でお願いいたしました。又「ありがとうございました。」と深々と頭を下げお礼を言う。街頭で募金をしてい



るときいろいろの人が通った。遠くから募金のために用意してくる人、その場で出す人、財布の小銭を全部募金箱に入れる人、通り過ぎてまでもどって募金してくれる人、札をポット入れる人、歩道の遠い所を足早に通り過ぎて行く人、すまして通る人、街頭に立った近くの家の人達に、みかん、あめなどいただきありがとうございました。募金をしてくれた人達から「ごころうさん、寒くない」と声をかけてくれたときなど大変うれしかった。街頭募金を終って法林寺に集まり集計してみんなはビックリした。30万円以上と言ったときは全員が拍手をして喜んだ。このような経験をしたスカウト達は何かを学びとっただろうと思う。又21団のBS隊が作ったお米を寄付してくれ各団の団委員の人達が作った昼食を食べ代表者がNHKに歳末助け合の義援金として持っていった。スカウト達は、街頭に立っているいろいろ見聞きしたことを話しながら帰っていった。



ぼくらの仲間



＝浜松第6団カブ隊＝



ワシ班の班長は木下君で、シェパード班の班長は、寺田君です。そのほかに、近藤隊長です。ぼくが、ボーイスカウトに入ってからよかったなあと思うことは、隊員のみんなどいっしょにキャンプに行ったり、サイクリングに行ったり登山したり手拍をおしえてもらったりロープの結び方をおしえてもらったりしたときです。その他にもいろいろとはいってよかったなあと思うことがあります。

これからも、ボーイスカウトで、いろいろとがんばっていきたいと思います。

＝浜松第6団ボーイ隊＝

われらの仲間

ボーイ隊 堀池 順一

ぼくが入っている団は、6団です。隊ルームは東田町の公民館です。班は、ワシ班シェパード班の2班です。ワシ班は、8人シェパード班は、7人でぼくは、ワシ班です。



6 団ボーイ隊

ボーイ隊 杉山章可

ぼくらの隊は、みんないい人ばかりです。とくに班長さんはとてもしっかりしています。見てると頭がさがってくる時がある。今度ぼくは、あれをまねしてやろうとその時は思ってもどうしても忘れてしまう。それでもぼくは一度ボーイスカウトがいやな時があった、やめてしまおうと思ったが、あの時しんぼうして今は本当によかったと思っている。

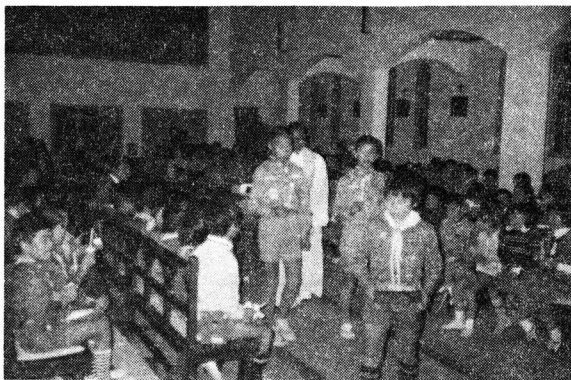
＝浜松第14団カブ隊＝

ぼくらのリーダー

4組 奥沢公一

ぼくたちのたい長は、ふだんは、とてもやさしいおねえさんです。そして、4人のふく長はみんな親切です。

「片山」ふく長は、このごろとてもうれしそうです、そのわけは、ボーイのリーダーのすけ川さんとこんやく中だからです。「小出」ふく長は、男のふく長でやさしいけど、さわいでいるととてもこわいです。もう1人の男のふく長は、かもさんです、歌や工作がとてもじょうずで、木の実や、葉、草などでいろいろなものの作り方を教えてくれます。そして「新見」ふく長は、いつもニコニコしていて、よくぼくたちの世話をしてくれます。



このようなすばらしい五人のリーダーがいるので、ぼくらのスカウト活動も、たのしくできます。毎月一ヶ月の「プログラム」をもらいますが、それにはとてもじょうずな、おもしろい絵が、書いてあります。それは、ぼくらのたい長が、ぜんぶ書いてくれます、ほんとうにたい長は、ぼくらのために、いろいろな事を考えてくれます。

＝浜松第14団ボーイ隊＝

ぼくらの隊長

ボーイ隊 藤田正勝

僕らの隊長は、色白で少々小ぶりで丸顔でそのうえ眼鏡をかけていて、いつもニコニコしています。あっけない！僕達の団も隊長の名前もまだでした。僕らは浜松第14団ボーイ隊、隊長の名前は小笠原隊長です。僕らは毎週日曜日10時からスカウト活動をしています。隊長はお仕事がい



そがしく、なかなか顔を出すことがありません、しかし、参加した時などはとてもはりきっているように見えます、そんな時はかならず雷というほどではないですが落ちます。しかし、目は笑っているんです。そして、先程も言ったようになかなか出てこない隊長が来ると、皆んな「あ、隊長だ」とか「隊長が来た」と云って、めずらしがっているのかよるこんでいるのか、それともいやがっているほどさわぎます。しかし、そんなみんなもきつと隊長が来るとうれしいのでしょうか。そして、僕もとてもうれしいのです。それは、さしいれがあるからなのでしょうか？

＝浜松第15団カブ隊＝

われらの仲間

カブ隊 倉島哲也

ぼくたち、浜松15団です。隊長は、前田隊長です。すこし細いけれどハンサムな隊長です。その中に、ぼくたちの仲間がたくさんいます。キャンプ・集会、いろいろと隊長といっしょにたすけ合っています。時々、仲間げんかをしたりして、隊長におこられたりも、するけど楽しく時をすごしています。

いつだったか、ハイキングに行った時、細い山道に竹が一本はえていて、その竹がじゃまで前に進むことができなかった時友だちのだれかが、竹をおさえてくれたので、みんながたすかりました。その時ぼくは思いました。友だちだ。親切だ。仲間だなあと感じました。ぼくが、足を切った時もそうだけどもみんなが心配してくれて、「大じょうぶか。大じょうぶか。」と書いて僕はうれしかったのです。ぼくも進んでみんなのためになるようにいい仲間になるようにがんばりたいと思っています。

われらの隊長

4組 三輪映徳

ぼくらの隊長は、前田隊長です。いつもにこにこしていてやさしいけど、ぼくたちが、悪いことをした時、とてもこわいです。温水プールへ行った時、遊んでいたら、泳ぎ方を教えてくれました。足がとどかない所でとてもこわかったけれど、いっしょうけんめい泳ぎました。その後とても泳ぎがうまくなったような気がしてうれしかったです。

青年の家へ、舎営に行った時、ネックリングを作りました。たい長が字を考えてくれて、ぼくはちょうこくとうでほるのをやりました。手を切ったりしましたが、とてもうまくできたと思います。ぼくはそれをいつもつけています。

隊長は、おもしろいゲームや歌を教えてください。隊長はとてもいい人だと思います。ぼくは隊長が大好きです。

浜松第15団

カブ隊 土屋 泰夫



浜松第15団の隊長は、やさしいです。わらい方もおもしろいし、きょうつけする時もかっこいいし、若くてちょっと体が小さい方です。たまには隊集会に見えない時があるけれどやつぱりみんなバラバラになってしまいます。隊長は、とてもすばらしいトランペットをもっています。時々みんなであうたうけどいつもではありません。隊長がとてもこわく感じる時もあります。ある日隊長がふえをふいた。さあ集まれるの合図だった。少し遅れてきた人がいた。まだこない人もいる。組長はよびにいった。30秒ぐらいたってやつときた。隊長は遅れてきた人の組の組長に責任があるので組長が2人で頭をぶたれた。ぼくはいやな感じがした。でも、責任をはたすことは大切です。みんな協力をしなければいけないからです。ぼくは、隊長はやさしいし、かっこいいがこわさがあったほうがいいです。すごくこわいから悪いそんな隊長だったらぼくはカブ隊をやめたいです。やはり隊長はぼくらの宝です。

カブ隊のこと

カブ隊 橋本 潤一

ぼく達のカブ隊では、色々楽しい事や、おもしろいことが、いっぱいあったけれど、その中でもこの前のクリスマス会が一番楽しかったです。クリスマス会が終わってから、みんなは、スーパーカーのラジコンで遊びました。

春からは、ボーイ隊に行きます。カブの時とはちがって、苦しい事も多くさんあると思いますが、キャンプが楽しみです。今年は日本ジャンボリーも開かれるので、ぼくはどんなことをやるのか興味があります。ボーイ隊は、色々なことで、大変だと思いますが、最後までやりぬくよう頑張りたいと思います。

—浜松第15団ボーイ隊—

ぼくらの隊長

ボーイ隊 小林 正典

ぼくたち15団の隊長は、馬場隊長です。とてもおもしろく、いろいろな事を教えてください。カブスカウトの時とは、またちがったゲームや歌もたくさんやります。ぼくたちの初級は、



2級が少ないので、今度は初級の中からも選ばれます。そのための事については、まだ始めていないと思います。早く隊長に班長訓練野営の事について、話してもらいたいと思います。

初級から1級になるまでには、いろいろな章を取ると思いますが、その章を取るために、ぼくはいろいろとやっています。でもわからない所の方が多く、2級の人でもわかりにくいことがあります。そんな所も、章を取るためにいろいろと隊長に聞きたいと思います。隊長も、みんなにいろいろな事を教えて、章をたくさん取れるようにして下さい。

—浜松第21団カブ隊—

ぼくの隊長

カブ隊 中村 法一

ぼくたちの隊長は、いろいろな性格がある。第1の性格は、「おこる。」

おこる時は、だらけている時や遊んでばかりいる時、手をポケットにいれている時などたくさんある。

第二に「やさしい。」

仕事を教えてくれる時や、いろいろなことを教えてくれるとき、などがある。

第3に「わらわせる。」

舎営や遠足の時での乗物の中や、自由時間などである。

策4に「まじめ。」

これは例がたくさんある。どこかへ行く時の道案内や、いろいろな説明や、野外活動などいろいろある。また、「こんき強さ。」と「かんのよさ」とかいろいろある。

隊長はぼくたちのためにいろいろなことを、やってくれる。ぼくはこんな性格があるからこそ、隊長だと思ふ。ぼくはこんな隊長が好きだ。ぼくも大きくなったら、隊長みたいになろうと思ふ。

ぼくの隊長

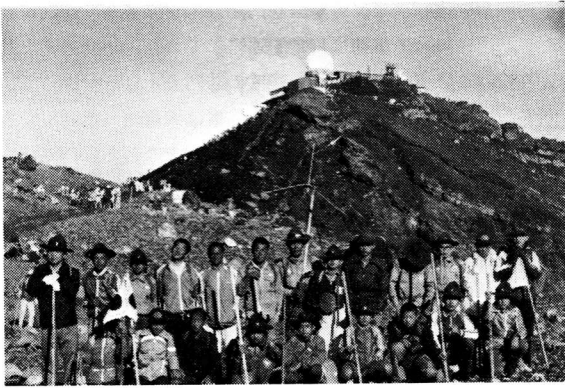
カブ隊 松島 洋

「パク、パク、パク。」隊長の音がきこえた。みんないそいで整列する。隊長の所へ報告をしに行く。「五組、全員集合しました。」次に国旗掲揚。「敬礼。」隊長の音がひびきわたった。みるな敬礼をしている。「なおい。」カブケースに当たる音が聞こえる。集会が始まった。集会の場所は妙恩寺である。今日は、戦国の武将という題で、かぶとやよろいなどを着てかぶとを落

とすことをやった。最後、かぶとやよろいは紙で作ったのでぼろぼろになってしまった。隊長はにこにこしている。ぼくらの隊長は、いつでも笑っていて公平なことをしてくれる。でも、きびしい所もある。ぼくはそんな隊長が大好きだ。隊長はぼくの所へ、あだなの松茶といてくれている。

集会が終わって、本を買いにいった。隊長、いや今は金原さんになる。なぜかは、ふだん本屋さんをやっている。実はこの本屋、隊長の家なのである。その時でも、にこにこ笑っている。宣伝ではないけど、隊長の本屋さんは、明るいいい店である。また、カブの集会の時は隊長になる。ぼくはよく隊長に心配をかけてしまう。キャンプや舎営の時、気持ちが悪くなった時、よく世話してくれた。今、隊長に言いたいことがある。それは「どうもありがとう。」と。

＝浜松第21団ボーイ隊＝



ボーイ隊 石川 明

ぼくたちの隊長は、玉木功一という名前です。隊長は、色が黒く黒人みたいですが。隊長は、じょう談を言って、よくぼくたちを笑わせます。それに隊長は、きまえが大変良いです。この前のソフトボール大会の時など、終ってお腹がすいたなあと考えた時にラーメンを皆なに食べさせてくれました。こんな事は時々あります。でも真剣な時は、こわいくらいです。約束を守らなかつたり、やるべき事をやらなかつたりすると、何回でもしっかり出来るまで、やり直しをさせられます。それに、しかる時の隊長はとてもこわく見えます。でもぼくは隊長が大好きです。これからも、隊長の命令を守って、21団の隊員として、行きたいと思えます。

僕らの隊長

ボーイ隊 杉村 洋孝

僕らの隊長は、玉木隊長だ。とても優しい隊長だと僕は思う。それから、僕達のことをとても真剣に考えてくれるとても立派な隊長だ。ぼくは、BS隊に入って一年目なので、なにかとよくわからないことがある。そういう時など、隊長は、とても親切に教えてくれる。でも、厳しくなければいけないところは、とても厳しい。こんな立派な隊長はほかにはいないと、ぼくは思っています。

ぼくも隊長のように立派な人に、なりたいと思う。そのためにも、スカウト活動に真じめに取り組むことが必要だと思う。

＝浜松第22団ボーイ隊＝ 浜松22団について

ボーイ隊 柳 瀬 博 一

22団はできてから今年で約3年目になる。僕がはいったのが51年の1月だから今年で2年になる。22団はまだ新しいので、きくスカウトもいないし、いろいろな点で未熟だと思う。キャンプの時も遊んでいる人もいるし、集合をかけてもなかなか集まらない時もある。そのような所は、これからの課題にしていこうと思う。又22団は二年生が4人しかいなくて反対に5、6年が大半をしめている。だから、僕達中学生がしっかりしなければいけない。このようにまだまだ未熟な22団だが、スカウトのちかとおきてをよく守って立派にしていきたい。

隊の紹介

ボーイ隊 竹 平 健 二

僕達浜松22団は、50年4月20日に発団いらい3年たち隊員は35人います。隊長は滝川卓幸隊長です。僕達の隊で3年間やったことをふりかえると、キャンプ、ハイキングサイクリング、募金、スキー、ソフトボールなどやりまして、その中で心にとこの行事が1つあります、それは52年11月23日の、ハイキング（追跡ハイク）の時、1つの班が道にまよってしまっしまいみんなで2時間ぐらいいさがしてやっと見つかりました。僕達の隊では初めてのことでとてもあわてたことです。僕達の隊はいろいろなできごとを土台にし、中央小地区1位や、浜松1位や、静岡1位や、日本1位や、世界1の隊にしていきたいです。

＝浜松第1団カブ隊＝

ぼくらの仲間

くま 尾 島 史 一

ぼくら、第1団カブスカウトは毎週日曜日法林寺に集まって活動しています。そこには40人の仲間がいます。みんな気のいいスカウト仲間です。夏の舎営、富士登山、募金活動など楽しいこと、苦しいことも力を合わせてやる仲間達です。そしてみ



富士登山

んながんばりやです。ゲームをやるときなどなかなか勝負がつかなくてひきわけになるときがあります。組集会でも、劇の練習や工作などをみんな、協力して楽しくやっています。その作品などを組で説明してわかるようにしていきます。スカウトの仲間は、3年生・4年生そして自分と同じ5年生が、だいたい同じ人数になっています。ちょうど兄弟のような感じです。みんなが隊長の指導にしたがって活動しています。

デンマザーも、いろいろ活動の手助けをしてくれます。デンチーフも手助けをしてくれてわからないことを、おしえてくれます。そのほか、いろいろの人たちが手つだいをしてくれるので、ぼくらの仲間がたのしくスカウト活動ができるのだと思います。今年は、このスカウトの仲間たちともおわかれです。少しさみしい気持ちがあるけど、あこがれのボーイスカウトに入るのだから、ボーイ隊になって新しい仲間といっしょにがんばりたいと思います。

ぼくらの隊長

うさぎ 宮崎博史

ぼくらの隊長さんは、女です。いつもやさしく、にこにこしているが、ぴりっとこわいときもある。けじめのつかない子は、隊長のきらいな子だと思う。ぼくは、はじめてスカウトにはいってまだよくわからないが多ぜいの副長、デンチーフ、デンマザー、組長、次長などに隊長は役割をしたり、次の計画をたてたり、準備したり全部1人でやりのける立派な人です。そのおかげで、ぼくたちはいつも楽しい集会がひらけます。いままでに、浜北のアスレチック、富士登山、夏の舎営、西部地区大会の1日、ディーゼルカーに乗ろうの1日、まめ芸術家の1日、森のパーティーの1日、新春ゲーム大会、といろいろ思い出がたくさん残りました。今年は、しかなれると思います。2年目だ、ぼくもがんばります。いつもやさしくぴりっとした隊長が大好きです。

＝浜松第1団ボーイ隊＝



富士登山

家庭訪門を実施して

隊長 河原崎敏

昨年の2月から3月にかけて、初めての試としてBS隊全ス

カウトを対象に、家庭訪門を実施してみたのでその感想を述べてみたい。

まず家庭訪門の目的については、

1. スカウト運動についての理解を求める
2. スカウト、父兄はリーダーに対して何を望んでいるのか。
3. スカウト、父兄の意見を今後のスカウト活動に生かしたい。
4. 父兄会や総会で顔を合わせない父兄と面談し、スカウト運動に協力を得る。

以上のような目的を持って実施してみた。

これはもう2年ほど前から計画していたことで、今までなかなか実行はでに至らなかったものである。今回思い切って実施してみたのであるが、幸なことに川上副長も積極的に応援してくれたのでまずは順調に訪門することができた。

さて訪門に先だってスカウト個人記録簿、スカウト活動の記録写真等を整理し、これに家庭訪門記録簿を作製して訪門に備えた。訪門に当って事前に日時を連絡しておき、集会のあと13時より17時までを目標に、30分程度の訪門を1日5軒廻って、6回をもって完了することができた。東は天竜川(薬師町)から西は小沢渡町まで、北は遠く三方原に至ること1日の走行キロも大へんなものである。

訪門に当って、ある家庭では1時間から2時間も話し込んでしまった所もあった。そして私たちはこの家庭訪門を通じて、特に次のことを訴えスカウト運動の必要性と理解を求めたのである。

1. スカウト運動は一生かけてやるもので2年や3年で終るものではなく、息の長い運動であって、死んだ後もスカウトであること。
2. 途中で挫折するようではスカウト精神は生かれない。
3. 家庭においてもスカウトが集会に出やすい環境づくりをしてほしい。

以上のことを私たちは強く訴えてみたのであるが、スカウトも父兄も十分納得してくれた、しかしその反対に父兄からは、

1. 学習塾に通わせるべきものであるかどうか。
2. クラブ活動が集会と重なる場合はどうしたらよいか。
3. しつけについては厳しく、しかも規律訓練をどしどしやってほしい。
4. 特技を伸す活動を取り入れてほしい。

などの意見が多く出されたものの1の即答には私たちも教育の専門家ではないので苦慮したものである。

しかしながらこの家庭訪門によって、父兄から非常によこんでいただき、また父兄との面談により親密感がより一層強くなり、そしてお互がスカウト仲間であることを確かめあうことができた。以上によって私たちの家庭訪門は初期の目的を達成することができ、よりよい成果を得ることができたものと確信する。

この家庭訪門によって私たちはリーダーとして意を強くし、勇気をもって今後の活動に努力することを誓い合い、また来期(53年度)入隊するスカウトの家庭訪門を計画しているところである。

★★★★★ スカウトコーナー ★★★★★

御嶽山登山

浜松第6団ボーイ隊 和久田茂夫

7月24日とうとう御嶽山へ行く日がきた。きょうは、夏休みの初めの日でもある。ぼくたちは、ボーイスカウトで行ったのです。まず浜松～名古屋までいき友達どうしならびたのしくむかっていきました。駅では時間があったので重いリュックをおろしてそのリュックを、まくらにしてねっころがって時間をまちました。駅のホームに電車がきて、その電車だと言うと、すぐにのり席を取りすぐにすわってためいきが「ふー」。電車が走っているうちにねむたくなりつついついねむって起きれば木曽福島つぎにバスで起きれば目的地玉滝に到着。



御嶽山頂上にて

24日は目的地までで終り。その次の日25日朝は夜中の3時起きでしたくをして、4時のバスに乗り田ノ原までいきそこから頂上目ざして歩く、はじめのうちはゆるやかでだんだんきゅうになってきたこの山に登っているときにところどころに、かねがおいであるのに不思議に思った。それと山へ登るときに、「六根清浄」といいながらいく人もいた。これは、仏教で目、耳、鼻、舌、身、意の六官を六根といい、六根の欲望をたちきってきよらかな心になることと辞典に書いてあったのでなるほどこの山は神の山だと思った。苦しいことをしているうちに、頂上についてしまった。

「バンザーイ。」

「やったぞー。」

とぼくは思っているうちに隊長たちはウイスキーでカンパイをしていた。そして雲が上へサーと上がるととてもすずしくきもちがよかった。と言うことでこの7月24、25日は夏休みのいい思い出になると思いました。隊長、こんないい山につれてってくれて、ありがとう。

おんたけ山の思い出

浜松第6団ボーイ隊 硯田晃弘

7月25日の朝なげなくパット目がさめた。もうみんなは着がえにはいっていた。ぼくもあわてて服をきた。トイレへ行ったときまだ、外はまっくらやみだった。何時ごろだかわからなかったけど、午前4時ごろじゃないかなあと思った。なん時に

してもよくもこんな早く起きたなあと思った。外に出たときは、さすがにさむいなあと思った。バスにのってからだいぶたったとき、ぼくはまどから木と木の間から景色をのぞいた。その景色を見てぼくはおどろいた。もう雲の上からだいぶ上にでていたからだ。それにその景色のうつくしきときたら最高だった。まっ白い雲に、その雲のところどころに高い山のあたまがぼつんと見えていて、そして、太陽の日ざしがうすくてらされていた。そんなけしきはうまれてはじめて見た。ここにきてよかったなあと思った。

7合目についたとき、バスによったのかばかに気持ちがよくなかった。上にのぼるにつれて気持ちが悪くなるのでおかしいなあと思った。だいぶのぼって休けいしてるところでついにばててしまった。はいてからは気分がよくなったけど、また、どんだんのぼっていくにつれて、また気持ちが悪くなった。そしてひとつの山の頂上でみんながどこかの山へ行っているとき、ぼくは、リュックをまくらにして昼ねをした。そして目がさめたときは、すごく気分がよくなった。それでもうひとつの山の頂上へついたときは、もうなんともなかった。それでどんだん下へおりて行くにつれてどんだん元気になってきました。高山病というのは、おもしろい病気だと思いました。ぼくは、おんたけ山にのぼってほんとにいい思い出になったなあと思いました。

静 光 園

浜松第14団カブ隊2組 斉藤公誉

12月25日日曜日、ぼくたちカブスカウトは、静光園に行きました。いつもは後からそれぞれの部屋に行ってあいさつをするけど、ちょうどお昼だったので先にあいさつをすることにしました。

あちらこちらの部屋を回っていると、いろいろなおじいさんおばあさんがいた。なにかの病気でおどっているようにへんな動きをしている人もいました。いつもと同じで、ほろほろなく人や、おんおんなく人もいて、そのなき方を見ると、東京のおばあちゃんを思い出した。おばあちゃんは、しばらく浜松にいて帰る時に、ほろほろないたのです。なき方がまたそっくりなのです。

話しは元にもどって、ここはリハビリテーション室、ここで歌や、かけ絵などをぼくたちがする所。ぼくたちはかけ絵をやりました。ぼくたちは「かた足だちょうのエルフ」をやりました。ライオンを出す所をしっばいしたのでしっばいしたなあと思ったら、お父さんが「すごく感じが出ていたよ」と言ってくれました。そして最後に歌を歌いました。おじいさん、おばあさんからの歌もありました。時間はだいぶオーバーし、お昼もとくにすぎっていました。

帰る時に、今日一日をふりかえり思い出したことは、おじいさん、おばあさんが、しわをたくさんよせて、そのしわのガタガタ道をつたって、なみだが落ちてぼくの足に落ちたこと、口をあけてオイオイないた人のこと、あめをみんなにくれた人のことなどで頭がいっぱいになりました。ぼくは「やはりきてよかった」と思いました。

恵那山移動キャンプのこと

浜松第14団ボーイ隊タイガー班 丹下 育也

ぼくたちボーイスカウトの、夏のキャンプは、8月6日～10日まで団委員長ふる里である長野県下伊那郡阿智村で移動キャンプを実施した。

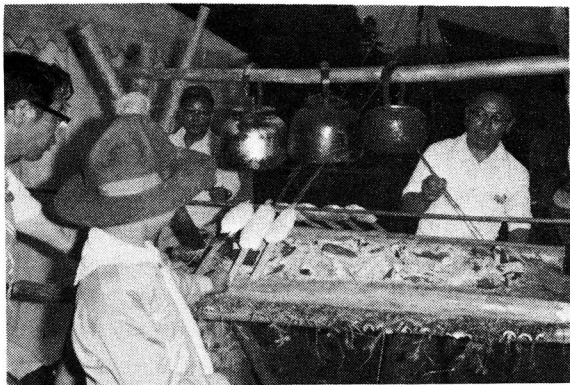
夏休みの自由研究も自分の目的に入れていたのでとても楽しみにしていた。一日目は電車でゆられて飯田線の飯田駅に着き近くの飯田カトリック教会でお昼を食べた。教会では、飯田の神父様やガールの団委員長、カブの隊長が冷えたスイカをくれ暑いなあ、と思っていたときだったので大へんおいしかった。それから駒場へ行き、金売り吉次や武田信玄に関係あるお寺でおしょうさんのお話を聞いてから第一のキャンプ地、昼神温泉まで一時間歩いた。

そこでは説営のあと、地元の人がその土地の伝説やいろいろなお話をしてくれ、五平餅の作り方も教えてくれました。夜は五平餅を食べて温泉に入って、テントにねました。

二日目に第二キャンプ地、高さ1700mの富士見台へ登りました。オリエンテーリングで行ったが、途中で道をまちがえたので、そこで弁当を食べてキャンプ場へ行った。そこは熊さぞおわれた素晴らしい牧場でありました。夜はキャンプファイヤーをやり、とてもたのしかった。

三日目は恵那山に登る予定だったが、小雨がふり、前の人が見えないほどの霧が出たので行けなくなってしまった。この日はみんなトランプやゲームをして遊びました。午後雨や風がすごくなってきたので山小屋へ移りました。雨の中での花火大会はうまくゆきませんでした。

四日目になって晴れたので、山の頂上へ行き、霧の中でもうをとったり手ばたをしたりしてとてもたのしかったです。時間がなくなったので山の下で神坂神社まで一時間半走った。距離が長かったので大へんだった。神坂神社でバスにのり飯田へ来て電車で浜松まで帰りました。夜は寒くふるえている人もいたが、みんな冬仕度を持っていたのでよかった。食事は、炊事班がうまくやっただけでおいしかった。



五平餅作り講習会

山のふもとにある世界で二番目に長い恵那山トンネル、そしておいしい果物、たくさんの伝説、目にするもの、耳にすることがすべてぼくにとってはめずらしい事ばかりだった。とくにあの太い木を舟のようになり抜いた水そうに満々とした水、手の切れるような冷たい水をもう一度飲んで見たい。

クリスマス

浜松第14団カブ隊 田中 賢治

ぼくは、まだカブスカウトに入って少ししかたっていません。今年のはじめて教会でクリスマスをしました。

始めに、みんなでもって来たプレゼントのこうかんをしました。ぼくがもらったのは、ガムテープとけしゴム一コです。その次にゲームになり、ロープわたりや、山登りなどをボーイスカウトのお兄さんたちといっしょにしました。



クリスマス会

そのあと部屋に入り、お母さんたちの「かけ絵」を見ました。「クリスマスものがたり」でせりふはぼくたち三年生が四人でテープにふきこみました。夕方になって、お聖堂の中へはいり歌をうたったり、げきを見たり、他のスカウトの人たちの自己しょうかいがありました。このクリスマスでぼくが一番心にのこったことは、キャンドルセレモニーです。電気が全部消えて暗くなり、ハミングしながら一人づつイエズス様の馬小屋のローソクのあかりを、自分のもっているローソクにつけていきます。今まで暗かった部屋の中がすこしずつ明るくなっていきます。とてもきれいでした。いまでも目をつぶると、そのときのことが思いだされます。

さいまつたすけ合い運動のこと

浜松第15団カブ隊4組 伊藤 博音

ぼくたちカブ隊では、ボーイたいと12月11日に、さいまつたすけ合い運動をしました。おかねがたくさんあつまつたら生活にこまっている人たちにおくります。

はじめにヤマハビルの前でやりました。ビルから出てくる人がたくさんいるのでお金もたくさんあつまりました。次は、せいぶデパートの前でやりました。とてもたくさんあつまりました。その日は、風がひどくてたいへんさむかったです。でも生活にこまっている人たちにお金をおくってよろこんでもらえると思うと寒いのがまんしていっしょうけんめいやりました。さいごに第一ようち園のところのお寺にあつまって、お金を計算したら33万円ぐらいになっていました。みんなよくがんばったなあと思いました。

野 営

浜松第15団ボーイ隊 平山 一久

ぼくは、ボーイスカウトで三回野営をしている。そして日数



楽しいゲーム

にして数えると、九日間しているのだ。他の集まりでも野営はやったことはあるのだがどれも夜営らしくない。例えば、近くに宿舎があり、ご飯は三回だけ飯ごう水はんをして残りの四食は宿舎で食べるとか、あらかじめかまどができていて、立ちかまどを作らずにご飯をたくとかである。

また、ご飯だけでなく、色々なリレーションでも他の集まりは、ボーイのように広いはいでやらず、内容もそうおもしろいとは思えない。それにボーイスカウトとする野営はきびしい、だからあとで《やったなあ》という感じが大きい。そういうことは他の作業にもいえると思う。だからぼくは、ボーイスカウトで行うものをしっかりと参加してやっていきたい。

菊章取得キャンプに挑戦

浜松第15団ボーイ隊 山中 将

ぼくたち1級4人は、冬休みの4日間を利用して菊章取得の為に2泊3日の移動キャンプに出発しました。

コースは浜松—小国神社—大洞院—可垂齊—浜松です。12月25日午前9時、浜松を出発しました。途中までは鉄道を利用しあとは食料・燃料・炊事道具がたくさんはいたリュックをしょってあるきました。途中で食料の補充をしながら午後1時30分ころ小国神社につきました。休けいして次の目的地大洞院へ向かいました。地図上では短かい道でも実際は坂の多い道でした。午後3時大洞院へつきました。そしてすぐ炊事にとりかかりました。持っていったガスボンベのコンロは火力が弱く、ごはんがなかなかたけませんでした。けれどなんとかごはんもたけて食事にしました。おどろいたことに夜、お寺では雨戸をしめません。ぼくたちのねた部屋は障子1枚で外と区切られていました。ねるときは大変さむくてねられませんでした。

次の日、次の目的地、可垂齊へ出発しました。途中、森町へて正午に可垂につきました。寺では寺の日課にしたがって生活しました。その日は5時夕食、そして8時から9時まで夜座（夜する座禅のこと）9時15分消燈。翌朝4時45分起床。5時から6時まで座禅、そして本堂へいって朝のおまいりをして7時から朝食でした。ぼくたちは、はじめて本当の禅寺で禅をやりました。なにも知らなくてもお寺のお坊さんが親切におしえてくれて2回目のときはうまくできました。1回目のとき、けんさくでたたかれましたけれど案外たくありませんでした。禅の修業というのは大変だなあとぼくたちはつくづく思いました。禅の経験をしたことはぼくたちにとってとてもよいことで

した。

12月27日、可垂齊に別れを告げ袋井駅を經由して浜松にかえってきました。たのしくためになったキャンプでした。

募 金 運 動

浜松第21団カブ隊 馬塚 資夫

ぼくは、うさぎスカウトのころ、募金運動ははずかしくてきらいでした。だけどいまではすきです。人のために役だつことをするからです。今年はとてもおもしろかったです。

浜松の砂山銀座にいったやりました。いちばん先に、ぼくよりもやく次長がはずかしそうな小さな声で「さい末助け合いにご協力お願いします」と、いいました、ぼくは思い切って、「さい末助け合いにご協力お願いします」と、大きな声でいいました。が、きたばかりなのでだれもいれてくれませんでした。何回も何回もいっしょうけんめい言いました。ようやくどこかのおばさんがいれてくれました。とてもうれしくてみんな「ありがとうございました」といいました。それから、みんながどんどんいれてくれました。ぼくはとてもうれしくて、「ありがとうございました」と大きな声でいいました。ようやく終わった。



おねがいします

ぼくらの組は、約九千円はっていました。みんながこんなにしてくれたとは思いませんでした。今年の募金運動は、いままでのよりとてもよかったです。

雨の中でのキャンプから

浜北第2団ボーイ隊 鈴木 光則

去年の7月30・31日に僕達浜北第2団ボーイスカウト隊は、キャンプを行いました。キャンプ地に到着して、すぐに班編制をし、僕は2班の班長となりました。昼食・開營式が済み設営に取り掛かりました。

まず、テントサイドの整地です。これには十分な時間をかけて行いました。この途中で雲行きがおかしくなってきましたので、雨が降らないかと心配になって急いで行いました。

次に、グランドシートを敷き、支柱を組み立て、本テントを張っていますと心配した雨が降ってきました。僕は、急いで行うように班員に指示しました。テントの回りに水がたまりだしテントの中に雨水がはいってきそうです。本テントを一応立て荷物をすぐにテントの中に入れました。僕はヤッケの上着を着

ました。雨はさらに強く降ってきます。

そして、フライシートに取り掛かり、その途中で雨水がテントの中にはいつてグランドシートがぬれているのが目につきました。僕は測溝を掘るように班員に指示し、自分もスコップを手に取り、測溝を掘り始めました。雨水がテントに入ってしまうのは、キャンパーとして失格と思い、僕は夢中で掘り続けました。やがて、雨も小降りになりフライシートも張りおえました。

僕は前に一度台風の中でキャンプを行ったときがありました。そのときは、雨が降ってきたときには、テントが張り上がって測溝も上級スカウトが掘ってくれましたが、今度は立場が逆です。あの頃僕は、僕達ばかりがたいへんな仕事をしと不公平と思いましたが、今度のキャンプでその考えもわかりました。いざとなると経験豊富な上級スカウトが先頭に立って指示し、人のいやがることもやり、一番苦労することがわかりました。たいへんなキャンプでしたが僕にとってはとてもよいキャンプと思えました。

富士登山について

浜松第21団ボーイ隊コブラ班 杉本賢一

毎年、7月から8月にかけて富士登山に行っている。今年で3回目だ。

去年は単独で登ったのが一位だった。でも、早くのぼりすぎで夜頭がガンガンした。だから、今年はトップグループでも少しゆっくり登ろうとした。



出発も一番で、玉木君と伸司君と岩井君の4人で登った。

少し登ったところで伸司君と岩井君がおくれたので、6合目から9合目ぐらまでは、玉木君と2人で登った。一番こりたのは、9合5しゃくのあたりで、雨が降ってきたことだった。今までは、登山にきて途中で雨に降られたことなんか一度もなかったの、とくに用意もして行かず、雨具にかえるあいだにびしょびしょになってしまい、寒さがガタガタしてきた。9合5しゃくの小屋で雨やどりをしていたら、辰美君が追いついたので3人で頂上まで登って行行った。

登って夜になってから、去年だったら頭がガンガンでぜんぜん食物も食べなくなかったが、今年は食欲満点で、トランプをみんなでやって大きわぎしたほどだ。富士登山は毎年同じコースを通るが、いつ行っても楽しいと思う。

歳末助け合い運動をして

浜松第22団ボーイ隊 斉藤幸弘

「歳末助け合い運動にご協力お願いします」と、のどが張り

さけそうなるまでよびかけていたときぼくは、あることを思っていた。それは、なぜみんなは協力してくれないんだろうか。10円でいいんじゃないか。ジュース1本がまんすれば、たばこ1箱買うのをやめれば。それなのに。まだみんな歳末助け合い運動に関心をもっていないようだ。どうすれば、というようなことを思っていた。でもそれとは別に今思ってみると、あの時は多くの人でやっていたのでじっさいには、ほとんどの人が出していたのでは、と言うようなことが考えられる。もしそうだとしたら、自分の心のせまさを考えさせられる。

地区のうごき

- 52年10月1日 緑化パレード
- 2日 J.O.T.A打合せ(法林寺)
- 4日 地区大会反省会(法林寺)
- 9日 浜松第7団20周年記念(青少年の家)
- 11日 地区訓練チーム会議(法林寺)
- 15～16日 20th J.O.T.A(中田島)
- 17日 地区ソフトボール打合せ(法林寺)
- 19日 中央小地区リーダー会(法林寺)
- 22～23日 S Sリーダー研修会(館山寺)
- 11月2日 コミ会議(法林寺)
- 3日 地区ソフトボール大会(自衛隊南基地)
- 5～6日 野営行事委員会研修野営(芝形)
- 16日 中央小地区リーダー会(法林寺)
- 18日 地区訓練チーム会議(青少年の家)
- 21日 S Sパーテー委員会(法林寺)
- 22～23日 地区リーダー研修会(青少年の家)
- 27日 浜北5団C S隊発隊式
- 12月5日 スカウト浜松編集会議(法林寺)
- 7日 7 N J. 隊長会議(法林寺)
- 11日 中央小地区歳末助け合い募金
- 14日 中央小地区リーダー会(法林寺)
- 17日 野営行事委員会(法林寺)
- 18日 S Sパーテー(八幡神社)

あとがき

◎謹んで新春の弥栄を申し上げます。

今年は日本ジャンボリーの年です。元気なスカウト活動のできる年であることを祈ります。

◎本号は中央小地区担当にて編集しました。昨年来、NHK助け合い運動の一環として街頭募金に中央小地区スカウト、リーダー、200余名が出動し、大きな成果を収めました。33万円余の金額より以上にもっと大きな収獲がありました。

それは奉仕をするということを体得したことである。

◎次号は西部小地区担当です。ご期待下さい。

発行所 第70号

日本ボーイスカウト浜松地区事務所
浜松市利町70-4 児童会館内
編集発行責任者 山中将司
印刷所 (株)朝日堂印刷所
昭和53年1月20日発行